

## 今のこと、これからのこと

探検委員長 宮 本 義 毎

組織は生きている。生きてればこそいつの日も苦悩を負っている。探検部も然り。部員の減少、技術力と組織力のアンバランス、フィールドの狭少化……。部創設以来、何一つ苦悩を負わず生きた仲間はいまい。

そして、創立15周年をむかえる今日、アラスカ、オーストラリア、さらにアマゾンの奥深いジャングルにわけ入り、未開部族の研究がすすめられているが、これらの実績の裏には、ますます複雑化した問題点を数多く内在させている。我が関西大学探検部はこれまで15年間、多くの先輩、仲間はもちろん、大学関係者、あるいは各界に活躍されている多くの賛同者の方々の暖かい支援の上に、大きな事故を起こすこともなく、数々の成果をおさめてくることができたのである。これからの活動をより高度なものとするには各部員の一層の努力によって技術力、チームワークの向上をはかると同時に、社会的にも賛同を得られる組織としての人格の形成に努めなければならない。

これまでの数ある合宿、遠征に際して、何一つ問題点を残さずして行なわれたものがあつたであろうか、さらに、企画委員会等による部内会議に於いて、あるいは、OB・現役との衆議機関である探検委員会に於いて提議検討されたはずのことが不用意にも幾度となくくりかえされてはいないだろうか。大学のサークルは四年を周期としてメンバーが入れ替っていく運命にある。しかしなが

ら、たとえメンバーが入れ替ろうとも、一度起した誤まちを二度と繰り返さないことを、個人としてだけではなく、組織として学んでいく時、それらは次代へと引きつがれ、伝統となり、発展の唯一の力となるのであり、組織的活動の意義を見だしえるのである。

又、探検部は私物化されたものであってはならないし、ましてや、一発勝負的に事をすすめ、後はどうなっても良いと云ったものであってはならない。過去から現在へと、次々に新しい仲間が加わって、それぞれが夢を実現できうる場でなければならない。

これらのことを跡まえた上で、幾つかの事柄を再確認してみたい。

### ① 目的を明確にし、長期展望を確立すること

ごくあたりまえのことではあるが、目的のはっきりしない集団を持続させることは出来ない。目的があつてこそ、部員の情熱もわき、努力も出来る。各分野での、日常的活動目標と、長期的目標とをあわせもった長期展望を確立させ、それを実現させるための体制づくりを行なう必要がある。

### ② 技術集団の確立

短い四年間の学生時代には、いろんなことをやってみたいと云う気持もあるだろう。しかし、別の見方をすれば、たった四年間の訓練と研究で

果して何がやれるだろうかと云う疑問も生まれる。フィールドが狭くなり、高度のテクニックと精神力が要求されるほどに疑問は大きくなる。OBと現役とが一体となった技術集団を確立させ、①の長期展望にそった、系統的運営を行なっていく必要がある。

### ③指導体制の強化

これまでの運営には“あいまいさ”が多くありすぎた感がある。企画委員会、探検委員会での検討をさらに実のあるものにし、全ての探検部員の

知識・技術が集約された計画を立案し、実行することをめざさねばならない。その為には、執行部の強化と同時に、各部員が互に刺激しあい、練磨しあえる指導体制を強化していく必要がある。

長期展望を確立し、それを実現させる基盤となる技術集団の確立、それを動かす指導体制について簡単に述べてみたが、机上の空論をたてることはたやすい。これからの探検委員会、あるいは部会を通して、具体的方策を検討しながら、創立20周年をめざして、空論を実論へとしていきたいと思っている。 (1972.8.記) (OB)



# 4成食堂

吹田市千里山

TEL (388) 1710

# エウル

吹田市千里山

TEL (388) 1834